



# 平成23年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成22年10月29日

上場取引所 東

上場会社名 東洋水産株式会社

コード番号 2875 URL <http://www.maruchan.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 堤 殷

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長

(氏名) 及川 雅晴

TEL 03-3458-5035

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

平成22年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	146,374	5.0	12,454	21.6	13,128	20.1	7,169	25.8
22年3月期第2四半期	154,045	3.9	15,891	22.2	16,427	17.8	9,660	22.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
23年3月期第2四半期	70.16	
22年3月期第2四半期	94.78	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
23年3月期第2四半期	228,350	170,489	70.5	1,575.72
22年3月期	229,242	170,288	70.2	1,575.67

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 161,006百万円 22年3月期 161,010百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
22年3月期		15.00		25.00	40.00
23年3月期		20.00			
23年3月期(予想)				20.00	40.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	307,000	2.6	26,000	16.5	27,000	17.0	15,800	14.6	154.63

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他 (詳細は、[添付資料]P.3「その他の情報」をご覧ください。)

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 社 (社名 )、除外 社 (社名 )

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更 有  
以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年3月期2Q	110,881,044株	22年3月期	110,881,044株
期末自己株式数	23年3月期2Q	8,701,326株	22年3月期	8,696,135株
期中平均株式数(四半期累計)	23年3月期2Q	102,181,838株	22年3月期2Q	101,923,476株

#### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
4. 補足情報	12
(1) 生産、受注及び販売の状況	12

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気の持ち直しの兆しが見られるものの、雇用情勢については改善には至っておらず、海外景気の下振れ懸念や為替レート・株価の変動等により景気が下押しされるリスクもあり、依然として厳しい状況にあります。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組むとともに、厳しい販売競争に対応するため、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は前年同四半期に比べ5.0%減収の146,374百万円、営業利益は前年同四半期に比べ21.6%減益の12,454百万円、経常利益は前年同四半期に比べ20.1%減益の13,128百万円、四半期純利益は前年同四半期に比べ25.8%減益の7,169百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の為替換算レートは、83.80円/米ドル（前第2四半期連結累計期間は、90.22円/米ドル）であります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

水産食品事業は、日本国内の消費者の低価格志向は依然として強く、厳しい価格競争が続きました。また、海老・鮭・カニ等は海外勢の強い買付需要を受け、円高傾向にも関わらず国内販売の利益を押し下げる要因となりました。このような状況の中、当社の得意商品を中心に、安全・安心でより消費者のニーズにこたえる商品開発を行い販売した結果、売上高は15,950百万円、セグメント利益は298百万円となりました。

海外即席麺事業は、海外経済の長引く不況の影響を受け、消費者の購売意欲が一層減少したこと、さらに円高の影響もあって、売上高は23,911百万円、セグメント利益は4,239百万円となりました。

国内即席麺事業は、カップ麺は、「赤いきつねうどん」「緑のたぬき天そば」「麺づくり」の基軸ブランドが堅調に推移し、今春から発売した提案型新ブランド「四季物語」と、昨年秋から発売した大盛サイズのオープンプライス商品「ごつ盛り」シリーズが市場に受け入れられ、売上を伸ばしました。袋麺は、昨年度ピークを迎えていた内食化傾向・低価格志向から消費トレンドが変化してきていることに加え、記録的な猛暑の影響もあり苦戦しました。その結果、売上高は43,008百万円となりました。利益面では、即席麺の需要維持・拡大のための販売促進費・広告宣伝費の増加、また新工場の設備投資に伴う減価償却費の影響によりセグメント利益は4,044百万円となりました。

低温食品事業は、生麺では春から初夏にかけての全国的な低温、夏の記録的な猛暑という激しい気候変化の影響もあり、生麺類全体の売上はやや厳しい状況となりました。冷凍食品類については、主力品である冷凍うどん・冷凍そばが外食市況低迷の影響を受けましたが、ライスバーガー・冷凍野菜類が新規導入により順調に推移しました。その結果、売上高は33,605百万円、セグメント利益は2,531百万円となりました。

加工食品事業は、レトルト米飯及び無菌米飯では既存品の販促強化と、鍋関連商材として「トマト鍋用スープ」、鍋のメ（しめ）に食べる「鍋用ライス」を発売いたしました。また、フリーズドライスープでは、「カップ もずくスープ」に季節感を加えてリニューアルいたしました。その結果、売上高は9,160百万円、セグメント利益は296百万円となりました。

冷蔵事業は、国内消費の低迷は一時期の状態から回復しつつあり、輸入貨物も少しずつ増加傾向にあるものの、依然として荷主の在庫圧縮傾向が続いていることから畜肉、水産物ともに在庫量は低位で推移しております。また、猛暑の影響によりアイスクリーム類の取り扱いが全国的に活発で、在庫が高水準で推移したことにより在庫が減少し、保管料収入を減収させる結果となりました。その結果、売上高は6,530百万円、セグメント利益は354百万円となりました。

その他は、主に弁当・惣菜事業及び不動産賃貸事業であります。売上高は13,815百万円、セグメント利益は947百万円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期の財政状態は、前連結会計年度末と比べ総資産は892百万円減少し228,350百万円、純資産は200百万円増加し170,489百万円となりました。この主な変動要因は、以下のとおりであります。

資産は、主に現金及び預金、有価証券が増加し、受取手形及び売掛金、建物及び構築物が減少しました。負債は、主に未払費用、繰延税金負債（固定）が減少しました。純資産は、主に利益剰余金が増加し、為替換算調整勘定が減少しました。

この結果、自己資本比率は70.5%、1株当たり純資産は1,575円72銭となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ3,522百万円増加し、50,067百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動の結果得られた資金は、前年同四半期に比べ1,838百万円増加の14,002百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の減少、たな卸資産の増加により資金が減少した一方、売上債権の減少、法人税等の支払額の減少により資金が増加したことによるものであります。

投資活動の結果使用した資金は、前年同四半期に比べ8,207百万円減少の5,677百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものであります。

財務活動の結果使用した資金は、前年同四半期に比べ994百万円増加の2,694百万円となりました。これは主に、配当金の支払額が増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、上半期の販売環境は当初想定していたよりも厳しく、下期も経済の状況や消費者の購買意欲の動き等不透明感が強くなっていること、さらには海外経済の低迷から急激に円高が進み、今後もこの基調は継続するものと想定し、対米ドルの為替換算レートを当初予想の93.00円から80.00円に修正したことから、売上高は前年同期に比べ2.6%減収の307,000百万円、営業利益は前年同期に比べ16.5%減益の26,000百万円、経常利益は前年同期に比べ17.0%減益の27,000百万円、当期純利益は前年同期に比べ14.6%減益の15,800百万円となる見通しです。

## 2. その他の情報

## (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

## (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

## (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

## ①「持分法に関する会計基準」の適用

第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分)及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号 平成20年3月10日)を適用しております。

これによる経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

## ②「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益が7百万円、経常利益が7百万円、税金等調整前四半期純利益は262百万円減少しております。

## (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	32,459	31,134
受取手形及び売掛金	36,716	39,004
有価証券	19,500	16,000
商品及び製品	13,517	13,218
仕掛品	381	221
原材料及び貯蔵品	3,687	3,819
繰延税金資産	2,171	1,651
その他	3,144	4,102
貸倒引当金	△511	△543
流動資産合計	111,068	108,609
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	44,632	46,437
機械装置及び運搬具(純額)	21,866	22,419
土地	30,185	30,409
建設仮勘定	1,227	1,162
その他(純額)	1,408	1,281
有形固定資産合計	99,321	101,709
無形固定資産		
のれん	46	71
その他	1,952	2,097
無形固定資産合計	1,998	2,169
投資その他の資産		
投資有価証券	13,799	14,690
繰延税金資産	1,335	1,232
その他	830	831
貸倒引当金	△1	—
投資その他の資産合計	15,962	16,754
固定資産合計	117,282	120,633
資産合計	228,350	229,242

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,595	18,697
短期借入金	1,780	1,714
1年内返済予定の長期借入金	52	52
未払法人税等	3,428	3,179
未払事業所税	33	68
未払消費税等	620	353
役員賞与引当金	21	173
未払費用	14,161	16,450
繰延税金負債	—	7
その他	1,874	1,241
流動負債合計	40,569	41,939
固定負債		
長期借入金	38	64
繰延税金負債	802	1,233
退職給付引当金	14,539	14,240
役員退職慰労引当金	109	111
負ののれん	601	676
資産除去債務	361	—
その他	840	689
固定負債合計	17,292	17,014
負債合計	57,861	58,954
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,516	22,516
利益剰余金	141,566	136,951
自己株式	△8,097	△8,086
株主資本合計	174,955	170,350
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△215	364
繰延ヘッジ損益	△637	197
為替換算調整勘定	△13,095	△9,902
評価・換算差額等合計	△13,948	△9,340
少数株主持分	9,482	9,278
純資産合計	170,489	170,288
負債純資産合計	228,350	229,242

(2) 四半期連結損益計算書  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	154,045	146,374
売上原価	96,580	91,510
売上総利益	57,465	54,863
販売費及び一般管理費	41,573	42,409
営業利益	15,891	12,454
営業外収益		
受取利息	223	69
受取配当金	141	182
賃貸収入	202	219
持分法による投資利益	109	19
雑収入	207	355
営業外収益合計	884	845
営業外費用		
支払利息	15	10
賃貸収入原価	32	32
為替差損	198	62
雑損失	102	65
営業外費用合計	348	170
経常利益	16,427	13,128
特別利益		
固定資産売却益	6	13
貸倒引当金戻入額	8	41
補助金収入	—	25
その他	5	8
特別利益合計	21	87
特別損失		
固定資産除売却損	105	255
投資有価証券評価損	107	8
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	254
減損損失	177	290
その他	26	17
特別損失合計	416	826
税金等調整前四半期純利益	16,032	12,389
法人税、住民税及び事業税	5,952	5,003
法人税等調整額	△37	△128
法人税等合計	5,915	4,874
少数株主損益調整前四半期純利益	—	7,515
少数株主利益	457	345
四半期純利益	9,660	7,169



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	16,032	12,389
減価償却費	3,874	5,064
減損損失	177	290
のれん償却額	24	25
負ののれん償却額	—	△75
持分法による投資損益 (△は益)	△109	△19
投資有価証券評価損益 (△は益)	107	8
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	254
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	335	298
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△22	△2
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△192	△151
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2	△30
受取利息及び受取配当金	△364	△251
支払利息	15	10
為替差損益 (△は益)	198	62
有形固定資産除売却損益 (△は益)	95	242
売上債権の増減額 (△は増加)	△811	2,056
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,067	△542
仕入債務の増減額 (△は減少)	△787	44
未払費用の増減額 (△は減少)	△1,317	△2,109
その他	△411	588
小計	18,913	18,153
利息及び配当金の受取額	377	250
利息の支払額	△15	△11
法人税等の支払額	△7,110	△4,390
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,164	14,002
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△186	△1,453
定期預金の払戻による収入	140	136
有形固定資産の取得による支出	△13,804	△4,044
有形固定資産の売却による収入	92	36
投資有価証券の取得による支出	△8	△20
投資有価証券の売却による収入	7	18
貸付けによる支出	△1,033	△1,111
貸付金の回収による収入	972	994
無形固定資産の取得による支出	△58	△256
その他	△5	23
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,884	△5,677

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,032	985
短期借入金の返済による支出	△1,985	△918
長期借入金の返済による支出	△56	△26
配当金の支払額	△1,529	△2,554
少数株主への配当金の支払額	△125	△131
その他	△35	△48
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,699	△2,694
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,915	△2,108
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△5,335	3,522
現金及び現金同等物の期首残高	49,537	46,545
現金及び現金同等物の四半期末残高	44,202	50,067

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報

## 【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	魚介類 部門 (百万円)	加工食品 部門 (百万円)	冷蔵庫 部門 (百万円)	その他 部門 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	17,404	127,285	6,637	2,717	154,045	—	154,045
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,043	275	529	298	2,147	(2,147)	—
計	18,448	127,560	7,167	3,016	156,192	(2,147)	154,045
営業利益	346	14,666	610	302	15,926	(34)	15,891

(注) 1 事業区分は業種、製品の種類及び取引形態により区分しております。

2 各事業の内容及び主要な製品の名称

- (1) 魚介類部門……魚介
- (2) 加工食品部門……即席麺・生麺・冷凍食品・米飯
- (3) 冷蔵庫部門……保管・凍結
- (4) その他部門……不動産賃貸

3 決算時における海外子会社との取引高消去に伴う為替換算によって生じた換算差額は、営業外損益(為替差損益)として処理しております。当第2四半期連結累計期間における営業外損益(為替差損益)のセグメント別内訳は、「魚介類部門」が168百万円(差損)、「加工食品部門」が3百万円(差益)であります。

## 【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	計(百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結(百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	126,465	27,579	154,045	—	154,045
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2,240	2,240	(2,240)	—
計	126,465	29,820	156,286	(2,240)	154,045
営業利益	9,734	6,134	15,868	23	15,891

(注) 1 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

- (1) 国又は地域の区分方法は、地理的近接度によっております。
- (2) 北米区分に属する主な国又は地域は、米国・メキシコであります。

2 決算時における海外子会社との取引高消去に伴う為替換算によって生じた換算差額は、営業外損益(為替差損益)として処理しております。当第2四半期連結累計期間における営業外損益(為替差損益)のセグメント別内訳は、「北米」が165百万円(差損)であります。

## 【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	27,715	155	27,870
II 連結売上高(百万円)			154,045
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	18.0	0.1	18.1

(注) 1 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

(1) 国又は地域の区分方法は、地理的近接度によっております。

(2) 各区分に属する主な国又は地域

北米……………米国・メキシコ

その他の地域……中国・台湾・韓国

2 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

## 【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

## 1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。なお、海外即席麺事業においては海外子会社が独立した経営単位であり、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは事業本部及び海外子会社を基礎とした製品別地域別セグメントから構成されており、「水産食品事業」、「海外即席麺事業」、「国内即席麺事業」、「低温食品事業」、「加工食品事業」及び「冷蔵事業」の6つの報告セグメントとしております。

「水産食品事業」は、水産食品の加工・販売を行っております。「海外即席麺事業」は、海外において即席麺類の製造・販売を行っております。「国内即席麺事業」は、国内において即席麺類の製造・販売を行っております。「低温食品事業」は、冷凍食品、チルド食品類の製造・販売を行っております。「加工食品事業」は、即席麺、冷凍食品、チルド食品類以外の加工食品の製造・販売を行っております。「冷蔵事業」は、冷蔵倉庫による保管・凍結を行っております。

## 2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
外部顧客に 対する売上高	15,950	23,911	43,008	33,605	9,160	6,530	132,165	13,815	145,980	393	146,374
セグメント 利益	298	4,239	4,044	2,531	296	354	11,764	947	12,712	△258	12,454

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業及び不動産賃貸事業であります。

2 売上高の調整額393百万円は、報告セグメントと財務諸表で取引高消去の方法が異なることにより発生した差異であります。セグメント利益の調整額△258百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△372百万円、棚卸資産の調整額28百万円、及びその他の調整額85百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に決算時における海外子会社との取引高消去に伴う為替換算によって生じた換算差額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

該当事項はありません。

## 4. 補足情報

## (1) 生産、受注及び販売の状況

## ① 生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
水産食品事業	4,503	—
海外即席麺事業	23,563	—
国内即席麺事業	33,770	—
低温食品事業	21,085	—
加工食品事業	9,914	—
その他	10,976	—
合計	103,813	—

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## ② 受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
加工食品事業	31	—	0	—
その他	10,631	—	35	—
合計	10,663	—	35	—

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2 当社製品はすべて見込生産によって製造されており、受注生産は行っておりません。  
3 外注先からの発注により受注生産を行っている会社は、フクシマフーズ(株)、(株)フレッシュダイナー、石狩東洋(株)及びミツワデリー(株)であります。

## ③ 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
水産食品事業	15,950	—
海外即席麺事業	23,911	—
国内即席麺事業	43,008	—
低温食品事業	33,605	—
加工食品事業	9,160	—
冷蔵事業	6,530	—
その他	13,815	—
計	145,980	—
その他の調整額	393	—
合計	146,374	—

- (注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
三井物産(株)	38,130	24.8	39,738	27.1

- 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。